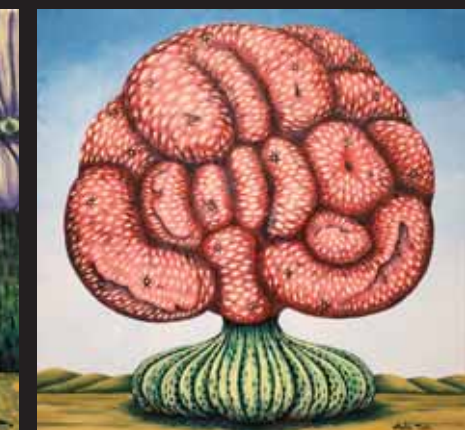
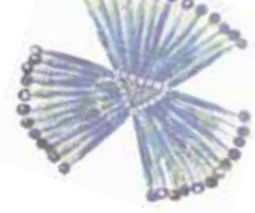




# 多養 麻子

Solo Exhibition  
2016.4/21 ~ 4/26



\*画像・イラスト等の保存・転載・無断利用はお断りします\*

## ~ Parallel World ~

今週の展覧会は、多養麻子氏による絵画展です。コンセプトが「parallel world(平行同時世界)」とあり油画で描かれた世界はとても個性的で現実世界では見ることのない植物たちが我々を出迎えるように佇んでいます。昼間のような快晴な空にキラキラと星が輝き、月が浮かぶ様は夢の中を彷徨っている様な不思議な感覚を抱かせます。氏の作品を見ているとヒエロニムス・ボス (Hieronymus Bosch 1450-1516) の描いた『快樂の園』(1480-1500年頃、プラド美術館蔵)のような幻想的な空間表現を感じ取る事ができ、ビビットな色合いで描かれた植物たちは、植物でありながら血が通い、身体を上下させ息をするかのような生物的肉感のある表現に少々グロテスクな印象を抱きます。しかし、それらが統一された世界感では違和感がなく寧ろこの世界をもっと知りたいという意欲がふつふつと湧き上がって来ます。そんなファンタジー溢れる表現をされた作品はシュルレアリズム(超現実主義)的と言っても過言ではないでしょう。油画作品の他には、水彩画で描かれた『happy seed(幸せの種)』のシリーズが発表されています。この作品は種でありながら、まるで細胞のように繋がり、形成されており、どの様に育っていくのか想像ばかりが膨らみます。全体の作品数は油彩が45点水彩が18点と多く、前回の個展と比べ小作品が多く展示されていますが、氏の魅力的な世界観は額の外側にまであふれ出し我々の好奇心を掻き立てます。

